

に由来するものであると思います。

男鹿半島には「五輪」のついた小字が船川港女川の「五輪田」男鹿中滝川、北浦の「五輪野」、戸賀加茂青砂の「五輪台」と4カ所存在しています。

このうち女川の「<sup>こねた</sup>五輪田」は不明ですが、滝川と加茂青砂には五輪塔があったことが記録等により知られております。

北浦の五輪野には中世にさかのぼる五輪塔が多数存在し、市の文化財に指定されております。

秋田地名研究会 会報第3号 男鹿市 泉明

\*\*\*\*\*

## サ 行

\*\*\*\*\*

### さいのかみ【浦大町<sup>さいのかみ</sup>塞ノ神】

#### \*賽の神\*

宗教、信仰に関わりのある地名、山岳信仰と関わり合いがある。

1988年 むめひろし著 地名<sup>はなし</sup>譚

#### \*賽の神\*

(花輪字稲荷川原は)火附森の東に隣接して包むように広がっている。この地名は幸稲荷神社が祀られていることから考えられる。藩政期の文化年代以前は、藩への届出文書には花輪稲荷とある。これに近くに祀られていた賽の神が合祀されたものと考えられる。賽の神は「幸の神」とも書かれることもあったから、合祀によって幸稲荷神社と記されたのであろう。この地には鍛冶屋に関する伝承がある。東方の山上には鍛冶神の三倉山神社も祀られている。賽の神は山の神でもあり、古代には金属神であったことから、周辺の状況に照らしてみると、この地区で製鉄関連の文化が広がっていたものと推察される。

秋田地名研究会「産鉄関連の地名」柳沢兌衛

### さどがひさ【浦大町<sup>さどがひさ</sup>里ヶ久】

「サト」は多くの人が住む所と解する。浦城跡地は里ヶ久にある。

1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名

### さわだ【真坂<sup>さわだ</sup>沢田】

#### \*さわだ\*

「サワ」は傾斜地の意。近くに八幡岱があり八幡様が鎮座し、近世は村の聖地であった。

1981年 新野直吉著 古代史上の秋田

#### \*さわだ\*

縄文時代中期の遺跡が見つかり、2度調査されたが、八郎潟干拓の工事で掘り起こされ破壊されてしまった。テニスボール大の丸石が多く出土し<sup>しゅたく</sup>手沢(魚や小鳥に<sup>とうてき</sup>投擲し狩猟に使用された石)と思える。

1981年 新野直吉著 古代史上の秋田

### さわみ【夜叉袋<sup>さわみ</sup>沢見】

### さんまいばし【夜叉袋<sup>さんまいばし</sup>三枚橋】

#### \*さんまいばし\*

ここを馬場目川が流れていた頃、三枚橋がかかっていた。川幅が広いため一度に橋を架けることができず、3回に渡って工事したため三枚橋という名が付いたと聞いている。

1998/7 中羽立 村井西二郎氏談

#### \*さんまいばし\*

馬場目川の川幅は広い所で2km近かったという。小池の御前柳神社から浦大町の近くまでの川幅があったと聞いている。

1998/9 小池 斎藤甚之助談